

平和へのメッセージ

平和都市宣言

留萌市は次のとおり平和都市となることを宣言する。

真の平和を希求することは、人類共通の願いであり、この崇高な理想実現のため、常に努力を続けていかなければならない。

私たち市民は、今日の緊張した国際情勢を認識し、我が国の非核三原則の堅持はもとより、核戦争の脅威を排除するため、地球上から永久に核兵器が廃絶されることを強く願うものである。

ここに留萌市は恒久の平和を願い幸せな市民生活を守る決意を表明し、非核平和都市を宣言する。

(昭和五十九年五月三日)

生まれた時から平和でしたから、戦争というものは、ずっと遠くの世界のことだと思っていました。

私は、戦争というものを全く体験したことはありません。生まれた時から平和でしたから、戦争というものは、ずっと遠くの世界のことだと思っていました。

しかし、最近ドキッとしたことがありまして、いつものように教室で授業を受けている時、静まりかえった中で突然銃声が鳴り響いたのです。私は一瞬驚きました。それは近くの自衛隊の演習の音が聞こえてきただけなのです。しかし、あのすさまじい音の弾丸が、人間の体を突き抜けることを想像するとぞっとします。

このように、戦争に関すること

はけっこう身近にあるのです。また、世界のことを考えると、今人類が持っている核兵器の全威力は、広島型原爆約百万発分、TNTの火薬に換算して世界中の一人ひとりが、なんと三斗以上持っている状態だそうなんです。

こういう状態の今だからこそ私は、身近な生活を考えてみなくてはならないと思うのです。生徒会長の立場になって初じめて、良い社会や平和を維持していくために努力をしていかななくてはならないということに気がきました。



中村 一樹くん (17歳)

私たちは「我々には関係ない」と、無関心でいてはいけません。政治とか身の回りのことに気を配り、何が正しいのかを見極めていかななくてはならないと思います。このようなことを考えないと、気が付いてみたら平和が崩れていたという事態が起こらないとも限りません。

世界最初の核兵器の惨禍を受けた日本は、人類の生命を保持するために努力しなければなりません。

今、米ソ両大国が戦争を始めると、恐らくこの地球は無いものと考えてよいでしょう。つまり私達の平和の日々がうばわれるところか、この世から人類が消滅してしまふということなんです。

核兵器をはじめとする戦争の手段が年々開発され、いつ爆発するか分からない状態にある地球に私達は暮らしているのです。しかし、その現実を知るならば、すべての人間は平和を求めないではいられなくなるでしょう。

世界最初の核兵器の惨禍を受けた日本は、戦争の恐ろしさと平和の尊さを知り、人類の生命を保持



宮本 力くん (15歳)

するために努力しなければならぬでしょう。

平和イコール人類の幸福だとは思いますが、高校に入り学んだことによると、幸福は副産物として得られる物なので、平和以外のかを求めるときです。そのなにかを私達は、至急に見つけなければならぬのだと思います。そして、それを見つけた時に、平和はもうすぐそこまで来ているのではないでしょう。

戦争の悲惨さを、全く知らない私にとっても、戦争は二度と起こしてはならないものだということ、は、明確に心の中にやきつけています。

最後に、この留萌市だけでなく日本の各都市、また、世界各国の都市で平和都市宣言をしてもらいたいと思っております。しかし、全ての人々の平和への自覚がなによりも一番大切なことではないでしょうか。

人類すべてに、人間を愛する心が生れたら戦争など起りえませんが、戦争ほど無利益なものはないのですから。

私達は何故、平和を願うのでしょうか。その答えは勿論今の生活を「平和でない」と思っているからでしょう。

「今、この瞬間に戦争は絶対起きない」とは言いきれません。戦争は国民の意志を聞いてはくれません。極一部の人間の意志で起こりうるのです。いわば、私達には戦争の賛否の決定的権利はないのです。そして、極一部の人間に勝手に決められた戦争も、始まってしまえば反対していた男達も家族を守るために戦うでしょう。

では、どうすればよいのでしょうか。私達には選挙権という権利が



小杉 貴子さん (17歳)

あります。昔の人々が努力として得た権利です。極一部に加わる人間を選べるのです。しかし、選挙権を得た人々の態度はどうでしょう。先日行われた衆参同日選挙は、一般的には投票率が高いと言われていますが、まだ依然として三十割近くの人が権利を自ら棄てているのです。誰がどんな政治をしようとするか、すべて認めることにならなければいけません。そんな安易な考えでよいのでしょうか。

現代人は公私の「公」の方が先行しすぎて、「私」の方は流されてしまっています。自分を見失っているのです。自らの根本に帰って深く見つめ、自分を理解し、自分も他人も大切にすることをすべきです。

人類すべてにその精神が生まれながら戦争などは起こりえませんが、戦争ほど無利益なものはないのですから。

私の生きている間に不安が消え去ったら、私の人生はどんなにか幸せでしょう。